



群馬県コンクール 金賞

初めてのおにぎり作り

安中市立松井田小学校 4年 角 田 陽 太

「おにぎり、とってもおいしかったよ。」

その日の夜、おじいちゃんから電話がありました。

泊まりに来ていたおじいちゃんが、夕方に帰るので、夜ご飯用にと、僕は初めておにぎりを作りました。

前に何度か、お母さんやおばあちゃんが作っている姿を見ていましたが、実際に僕にも、作れるのか不安で、ドキドキしていました。

そして、初めてのおにぎり作りの開始です。

おばあちゃんが、たきたてのご飯を、お茶碗によそって、少し冷ましてからラップにのせてくれました。

「三角でも、丸でも、好きなように、にぎって良いんだよ。」

おばあちゃんが、ニコニコと、やさしい笑顔で言ってくれました。

僕は、悩みながらも、三角おにぎりにしようと思い、手を山型にしてギュッギュッと、にぎりましたが、中々思うような形にならず、いびつなおにぎりが出来ました。

上手く作れずに、しょんぼりしていると、

「心のこもった、おいしそうなおにぎりが出来たじゃない。」

と、おばあちゃんがほめてくれました。

「おにぎりは形じゃなく、食べてもらう人の事を考えて作ると、おいしいおにぎりになるよ。」

と、大切な事も教えてくれました。

その言葉で、僕は何だか、温かい気持ちになりました。

僕の家は、おばあちゃんの知り合いの農家さんから、お米を買っています。

その農家さんはおじいさんで、土作りから始まり、田植えや管理、収穫まで、米作りの工程を、ほぼ一人で行っています。

僕は、米作りの経験をした事がありませんが、おじいさんからの話を聞いた時、多くの手間と時間、体力も必要で、大変な苦労があるんだと、考えさせられました。

おじいさんとは、たまにしか会えないけれど、会った時には、決まって必ずこう話してくれます。

「米作りは大変だけれど、体力が続く限り、頑張らなくちゃね。」

毎日、当たり前のように食べているお米も、おじいさんの顔や言葉を思い出すたびに、感謝の気持ちでいっぱいになります。

大切に育てられたお米で、今度は、家族全員に、僕が作ったおにぎりを、食べてもらいたいです。

色々な形のおにぎりになるかもしれないけれど、家族の事を思いながら、心をこめて、作りたいと思います。

「おいしいおにぎりを作るから、まっててね。」